

# ケニア

Republic of Kenya

	2011年	2012年	2013年
①人口：4,180万人（2013年）			
②面積：59万1,958km <sup>2</sup>			
③1人あたりGDP：1,016米ドル （2013年）			
④実質GDP成長率（%）	4.4	4.6	4.7
⑤消費者物価上昇率（%）	14.0	9.4	5.7
⑥失業率（%）	n.a.	n.a.	n.a.
⑦貿易収支（100万米ドル）	△8,875	△10,135	△7,845
⑧経常収支（100万米ドル）	△3,830	△4,255	△3,551
⑨外貨準備高（100万米ドル、 期末値）	4,264	5,711	6,598
⑩対外債務残高（グロス） （100万米ドル、期末値）	7,858	8,863	7,096
⑪為替レート（1米ドルにつき、 ケニア・シリング、期中平均）	88.81	84.53	86.12

〔注〕④：2013年は暫定値。⑦⑧⑩：ケニア・シリング建てをドル換算  
〔出所〕①②④⑤⑦⑧⑩：ケニア国家統計局、③⑨⑪：IMF

## 総選挙乗り越え、堅調な成長を維持

2013年のケニアの実質GDP成長率は4.7%と、前年の4.6%から0.1ポイント上昇した。財貨・サービスの輸出入はいずれも2.8%増加した。消費者物価上昇率は5.7%で、前年の9.4%、前々年の14.0%と比較するとインフレは抑制された。フォーマルセクターにおける賃金上昇率は13.0%（平均年収49万7,488ケニア・シリング。以下Ksh）、国民総可処分所得は11.4%増加した。

産業別では、最大産業でGDPの25.3%を占める農林業の実質成長率が2.9%で、前年の4.2%から減速した。主要農産物の生産量は、小麦や米、紅茶、砂糖などが増加した一方、コーヒー豆は減少した。製造業の成長率は前年の3.2%から4.8%へと拡大した。2013年3月の総選挙を経て、政権移行がおおむね平和裏に実現したため、企業の設備投資や生産活動が活発化したとみられる。運輸・通信業は、自動車販売や携帯電話ビジネスの拡大により6.0%伸びた。携帯電話の加入者数は3,130万人を超え、普及率は約75%となった。金融業は、民間企業への融資増加や利子所得の拡大などで7.2%、卸・小売業も内需に支えられ7.5%成長した。一方、サービス業ではホテル・レストラン業がマイナス4.5%と、唯一マイナス成長を記録した。2013年9月に首都ナイロビで発生した大型ショッ

表1 ケニアの需要項目別実質GDP成長率

	（単位：%）		
	2011年	2012年	2013年
実質GDP成長率	4.4	4.6	4.7
民間最終消費支出	2.9	5.8	4.5
政府最終消費支出	5.2	5.7	9.6
国内総固定資本形成	12.6	11.5	2.3
財貨・サービスの輸出	9.1	6.0	2.8
財貨・サービスの輸入	15.7	11.6	2.8

〔注〕2013年は暫定値。

〔出所〕ケニア国家統計局

ピングモールでのテロ事件に象徴されるように、治安は悪化傾向にある。その影響もありケニアへの渡航者数は151万9,600人と、前年比11.2%減少した。

2014年も消費やサービス業が引き続き経済を牽引するとみられる。港湾都市モンバサからナイロビまでをつなぐ標準軌鉄道建設事業や地熱発電所建設をはじめとする電力事業、ケニア北西部等での石油探査・開発事業など、各種の大型プロジェクトの進展が注目される。

## 輸出が伸び悩み貿易赤字は拡大

2013年のケニアの輸出額（再輸出含む）は前年比3.0%減の5,022億8,700万Ksh、輸入額は2.8%増の1兆4,133億1,600万Kshだった。貿易赤字は6.3%拡大し、9,110億2,900万Kshとなった。

輸出のうち、国産品輸出は4,556億8,900万Ksh（輸出総額の90.7%）で、再輸出は465億9,800万Kshだった。主な輸出品目は紅茶、園芸作物、衣料品・アクセサリー、コーヒー豆（非焙煎）、鉄鋼などで、これら上位5品目が国産品輸出総額の54.9%を占めた。最大輸出品目の紅茶は、生産量増加に伴い輸出量も前年比で18.3%増加したものの、輸出額は1,046億4,800万Kshと、伸び率は3.2%にとどまった。園芸作物は主に野菜の輸出が好調で10.1%増加したほか、衣料品・アクセサリーはアフリカ成長機会法（AGOA）の優遇制度を活用したアパレル製品の米国への輸出が増大し、17.9%増の243億7,900万Kshとなった。一方、コーヒー豆（非焙煎）は生産コスト上昇などの影響で生産量が減少したことにより、輸出量は5.5%減、輸出額は26.7%減の163億2,800万Kshだった。コーヒー豆は世界的に供給量が増え、需要に一段感が出たことなどから、輸出単価が低下し、輸出額の減少にも拍車を掛けた。再輸出を含む輸出を国・地域別にみると、

表2 ケニアの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位：100万ケニア・シリング、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2012年		2013年			2012年		2013年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
紅茶	101,441	104,648	23.0	3.2	石油製品	237,557	252,673	17.9	6.4
園芸作物	81,129	89,339	19.6	10.1	産業用機械	194,666	231,440	16.4	18.9
衣料品・アクセサリー	20,676	24,379	5.3	17.9	自動車	73,768	83,330	5.9	13.0
コーヒー豆(非焙煎)	22,271	16,328	3.6	△26.7	鉄鋼	56,667	80,749	5.7	42.5
鉄鋼	15,098	15,560	3.4	3.1	プラスチック原料・同製品	47,650	55,182	3.9	15.8
たばこ・同製造品	16,615	13,709	3.0	△17.5	動植物性油脂類	54,876	48,371	3.4	△11.9
エッセンシャルオイル	13,623	11,172	2.5	△18.0	原油	68,086	41,037	2.9	△39.7
プラスチック製品	10,278	10,263	2.3	△0.1	医薬品	41,307	40,114	2.8	△2.9
ソーダ灰	9,724	8,997	2.0	△7.5	非製粉小麦	29,743	30,189	2.1	1.5
革製品	7,036	8,491	1.9	20.7	化学肥料	20,184	27,957	2.0	38.5
合計 (その他含む)	479,706	455,689	100.0	△5.0	合計 (その他含む)	1,374,587	1,413,316	100.0	2.8

[注] 輸出には再輸出は含まない。2013年は暫定値。

[出所] ケニア国家統計局

表3 ケニアの主要国別輸出入<通関ベース>

(単位：100万ケニア・シリング、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2012年		2013年			2012年		2013年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
ウガンダ	67,450	65,362	13.0	△3.1	インド	195,230	258,230	18.3	32.3
タンザニア	46,036	40,496	8.1	△12.0	中国	167,206	182,356	12.9	9.1
英国	40,630	37,613	7.5	△7.4	アラブ首長国連邦(UAE)	149,879	117,360	8.3	△21.7
オランダ	31,056	32,578	6.5	4.9	日本	63,135	83,720	5.9	32.6
米国	26,405	29,936	6.0	13.4	南アフリカ共和国	61,954	70,724	5.0	14.2
アラブ首長国連邦(UAE)	28,608	25,144	5.0	△12.1	米国	65,966	57,412	4.1	△13.0
パキスタン	23,889	24,130	4.8	1.0	英国	43,849	49,020	3.5	11.8
コンゴ民主共和国	18,427	18,437	3.7	0.1	インドネシア	55,241	45,041	3.2	△18.5
エジプト	21,464	17,001	3.4	△20.8	サウジアラビア	66,841	41,423	2.9	△38.0
ソマリア	19,237	16,940	3.4	△11.9	ドイツ	41,474	37,488	2.7	△9.6
合計 (その他含む)	517,847	502,286	100.0	△3.0	合計 (その他含む)	1,374,587	1,413,316	100.0	2.8

[注] 再輸出を含む。2013年は暫定値。

[出所] ケニア国家統計局

アフリカ諸国向けの輸出額は前年比7.6%減の2,314億7,400万Ksh(輸出総額の46.1%)、このうち東アフリカ共同体(EAC)加盟国(タンザニア、ウガンダ、ルワンダ、ブルンジ)への輸出額は7.4%減の1,249億5,700万Ksh(24.9%)だった。最大の輸出相手国はウガンダで、輸出額は653億6,200万Kshだった。欧州諸国向けの輸出額は1.5%減の1,232億9,900万Ksh(24.5%)、アジア諸国向けの輸出額は2.0%増の1,075億5,800万Ksh(21.4%)だった。

輸入では、石油製品、産業用機械、自動車、鉄鋼、プラスチック原料・同製品などが主要品目で、これら上位5品目が輸入総額の49.8%を占めた。上位輸入品目の中では特に鉄鋼と産業用機械の伸び率が高かった。自動車の輸入台数は9万2,270台と24.5%増加した一方、ケニア石油精製所(KPRL)の製油活動停止に伴い、原油の輸入量は43.1%、輸入額は39.7%それぞれ減少した。

国別では、輸入額が前年比32.3%増(2,582億3,000万Ksh)を記録したインドが2012年に続き最大の輸入相手国となった。次いで中国が9.1%増の1,823億5,600万Ksh

万Ksh(10.5%)だった。

### ■活発化する外国企業の活動で直接投資額が拡大

ケニア国家統計局によると、2013年の対内直接投資額(国際収支ベース、ネット、フロー)は前年比でほぼ倍増し、443億Kshとなった。ケニア投資庁によると、同庁に登録された2013年の対内直接投資額(FDI)は前年比68.0%増の847億Kshで、これら外国企業の直接投資により2万2,136人分の雇用が創出された(報道ベース)。現行制度では、外国企業がケニアに進出する際に同庁へ案件登録することは義務付けられておらず、また、同庁も全ての投資案件をカバーできていない。そのため、外国企業による直接投資は、公表金額よりも多く、ケニア経済により大きなインパクトを与えたとみられている。

2013年は資源開発分野で外国企業の活動が目立った。油田が発見されたケニア北西部のトゥルカナ地域ではタロー・オイル(英国)やERHCエナジー(米国)などが石油探査・埋蔵量調査を行い、沿岸部のラム沖ではブリティッシュガス(英国)やパンコンチネンタル(オース

表4 日本の対ケニア主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2012年	2013年				2012年	2013年		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
鉄道用以外の車両	436.7	541.9	59.5	24.1	樹木・植物	17.0	15.9	34.4	△6.6
乗用自動車	258.8	341.5	37.5	32.0	切り花、花芽	12.1	11.3	24.5	△6.2
貨物自動車	137.1	163.5	18.0	19.2	植物の葉、枝、草、苔、その他	3.6	3.2	7.0	△10.4
原動機付きシャシー	13.4	19.2	2.1	42.7	スパイス・コーヒー・茶	12.1	12.4	26.8	2.6
鉄鋼	95.1	177.7	19.5	86.8	紅茶	7.8	7.1	15.4	△8.4
鉄または非合金鋼のフラットロール製品 (熱間圧延をしたもので600 mm 以上)	85.6	148.0	16.3	72.9	コーヒー豆 (非焙煎)	3.0	3.5	7.6	15.4
その他合金鋼の棒 (熱間圧延をしたもので不規則に巻いたもの)	-	17.8	2.0	全増	コーヒー豆 (焙煎)	1.3	1.8	3.8	39.7
機械	32.1	89.2	9.8	177.9	調整食料品	11.1	8.9	19.3	△19.7
蒸気タービン	0.0	50.8	5.6	1,413倍	コーヒー・茶のエキス、エッセンス、濃縮物	11.1	8.9	19.3	△19.8
電気機器	7.2	20.8	2.3	190.9	魚・海産食物	1.6	1.9	4.2	21.2
電動機および発電機 (原動機とセットにした発電機を除く)	0.1	15.5	1.7	166倍	魚のフィレ、魚肉	1.5	1.8	3.9	22.0
人造繊維の短繊維・織物	18.2	16.7	1.8	△8.2	食用果実・ナッツ	0.6	1.7	3.7	192.1
合計 (その他含む)	657.7	910.6	100.0	38.5	たばこ	0.4	1.2	2.5	167.6
					合計 (その他含む)	46.8	46.2	100.0	△1.4

[出所] 財務省「貿易統計 (通関ベース)」を基に作成

トラリア)などが天然ガス探査活動に取り組んでいる。自動車分野では、自動車登録台数の拡大(二輪・三輪を除く2013年の登録台数は前年比21.7%増)を背景に、トラックやバスを取り扱うスカニア(スウェーデン)が進出したほか、自動車部品メーカーのボッシュ(ドイツ)が販売・サービス会社を設立した。ホテル産業では、バスタウエスタンホテル(米国)やケンピンスキーホテル(ドイツ)などが進出した。外食産業では、ファストフード・チェーンのサブウェイ(米国)が2013年にケニア初となる店舗を設立した。外資系の大手ファストフード・チェーンとしては、2011年のKFC(米国)に次ぐ進出となった。モンバサからナイロビまでを結ぶ標準軌鉄道開発は、中国路橋工程有限責任公司(CRBC)が請け負い、本格的な鉄道建設は2014年10月からの開始が予定されている。東アフリカ最大規模の交通インフラプロジェクトとされる標準軌鉄道開発の建設費は約38億ドルに上り、このうち9割の資金を中国政府が支援する。

### ■日本企業の進出も徐々に増加

日本の「貿易統計(通関ベース)」によれば、2013年の日本の対ケニア貿易は、輸出額が前年比38.5%増の9億1,060万ドル、輸入額が1.4%減の4,620万ドルだった。日本の貿易黒字は41.5%拡大し、8億6,440万ドルとなった。

日本からケニアへの最大の輸出品目は自動車で、乗用自動車の輸出額は32.0%増の3億4,150万ドル、貨物自動車の輸出額は19.2%増の1億6,350万ドルだった。これら2品目が輸出総額の55.5%を占めた。また、鉄鋼の輸出額

が1億7,770万ドルと86.8%増加したほか、日本企業参画の地熱発電プロジェクトで使用される蒸気タービンの輸出額も5,080万ドルと大幅に伸びた。

日本はケニアから主に、切り花や紅茶、コーヒー豆などの農産物を輸入している。切り花のうち、バラの輸入は金額ベースで6.8%減、数量ベースで14.0%減となったものの、輸入額は988万8,000ドルで、金額ベースでは、2009年以来ケニアが日本にとって最大のバラ輸入相手国の座を維持している(数量ベースでは韓国が1位)。紅茶の輸入額は710万ドルと8.4%減少した一方、コーヒー豆(非焙煎)は国際相場の購入単価が低下したこともあり輸入量が増加し、輸入額も350万ドルで15.4%増加した。

日本企業の動向としては、2014年1月には三菱自動車が出張員事務所を、味の素が販売拠点をそれぞれ開設した。また、うどんチェーン店等を展開するトリドールは、2014年4月にナイロビに現地法人を設立した。同社は2014年中をめどに、テリヤキチキンを主力商品としたファストフード店を開く計画だ。

既に進出済みの企業の動きでは、2013年5月にロート製薬が現地法人を設立、ホンダモーターサイクルケニアが2013年11月に二輪車の組立工場の稼働を開始したほか、日清食品ホールディングスはケニア国内での即席麺販売を開始し、今後の現地生産開始に向けた準備を進めている。日本企業が取り組む大型プロジェクトとしては、引き続き、豊田通商がオルカリアの地熱発電所建設事業に取り組んでいるほか、東洋建設がモンバサ港のターミナル拡張事業に取り組んでいる。そのほか、商社を中心に駐在員を増員する日本企業が増加傾向にある。